

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第3975406号  
(P3975406)

(45) 発行日 平成19年9月12日(2007.9.12)

(24) 登録日 平成19年6月29日(2007.6.29)

(51) Int. Cl. F I  
**G06Q 50/00 (2006.01)**  
 G06F 17/60 104  
 G06F 17/60 138

請求項の数 6 (全 35 頁)

(21) 出願番号	特願2005-329363 (P2005-329363)	(73) 特許権者	304020177 国立大学法人山口大学
(22) 出願日	平成17年11月14日(2005.11.14)		山口県山口市吉田1677-1
(65) 公開番号	特開2007-140608 (P2007-140608A)	(73) 特許権者	304028346 国立大学法人 香川大学
(43) 公開日	平成19年6月7日(2007.6.7)		香川県高松市幸町1番1号
審査請求日	平成19年2月13日(2007.2.13)	(73) 特許権者	591141784 学校法人大阪産業大学
早期審査対象出願			大阪府大東市中垣内3丁目1番1号
		(73) 特許権者	591260672 中電技術コンサルタント株式会社
			広島県広島市南区出汐2丁目3番30号
		(73) 特許権者	598154947 株式会社エイトコンサルタント
			岡山県岡山市津島京町3丁目1番21号 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 構造物補修施工計画支援システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

情報入力装置と、情報格納装置と、情報演算装置と、情報出力装置を有し、各構造物における劣化に係る複数の要因を、2次元以上の空間（以下、多次元空間という。）を構成する座標軸上に対応させ、前記複数の要因に係る要因データと過去の補修施工・未施工の実績データを教師値として用い、前記複数の要因に係る要因データに対応した補修工事の要・否を定量的数値で表現しながら、放射状基底関数ネットワーク又はサポートベクターマシンを用いて解析することで、前記多次元空間内で前記補修工事の要と否の境界を形成させ、この境界を前記補修工事の要否を分離することが可能な判別境界線又は判別境界面（以下、判別境界線を含めて判別境界面という。）なる基準として、ある構造物における補修工事の必要度を演算する構造物補修施工計画支援システムであって、

前記情報入力装置は、前記ある構造物における劣化の要因データと、この劣化の要因データが取得された時点を表す時期データと、前記判別境界面を構成する境界データとを、前記情報格納装置に入力可能な手段であって、

前記情報演算装置は、前記境界データを前記情報格納装置から読み出して、この境界データから構成される判別境界面が、前記要因を次元として構成される多次元空間の座標中に形成され、この多次元空間の座標中に、前記情報格納装置から読み出した前記ある構造物のある時点及びこのある時点とは異なる後の時点における劣化の要因データ又は前記情報入力装置から入力された前記ある構造物のある時点及びこのある時点とは異なる後の時点における劣化の要因データを座標点として入力する解析条件設定部と、

10

20